

# 造影CT検査の説明確認書

CT検査では、より正確な診断を行う為、検査の途中で静脈内に造影剤を投与して造影検査を行います。造影剤を使用しなくても検査は行えますが、十分な診断が出来ない場合があります。

- 非イオン性ヨード造影剤  
造影剤は、非イオン性ヨード造影剤を使用して検査を行います。非イオン性造影剤は安全な薬ですが、場合によっては副作用が起こる事もあります。
- 副作用の種類・頻度  
造影剤投与後60分以内に現れる有害事象は「急性副作用」、1時間から数日後に現れるものを「遅発性副作用」といいます。
  1. 軽度な症状では、潮紅や嘔気、腕痛、掻痒、嘔吐、頭痛、軽度蕁麻疹など。
  2. 中等度の副作用は軽度の症状が重度化したものに加えて低血圧、気管支けいれんがある。
  3. 生命に危険がある重度の副作用には、さらにけいれんや意識喪失、咽頭浮腫、気管支けいれん、肺水腫、不整脈、心停止、心血管虚脱、肺虚脱などがある。

※ ヨード系造影剤については、重い副作用として呼吸困難、嘔声(させい)、意識障害、血圧低下、腎不全などが約2.5万人に1人(0.004%)に発生し、場合によっては後遺症が残る可能性があることを説明。さらに病状、体質によっては約40万人に1人(0.00025%)の割合で死亡する場合もある。

※ 残念ながら、造影剤投与によって引き起こされるショックの原因は不明で、事故を予知することはできません。ただし、以前に中等～重度の副作用を発症したことがある場合は、重度の副作用の発現率が6倍高くなり、また喘息やアレルギー症状がある場合もリスクが6～10倍上昇します。
- 穿刺部の合併症  
造影剤注入時の合併症では、造影剤を勢いよく血管内に注入する事により血管外に造影剤が漏れることがあります。この場合、穿刺部が腫れて、痛みを伴います。基本的には、時間と共に吸収されていきますが痕がしばらく残ることがあります。症状が重い場合は、別の処置が必要になる事もあります。